

下川町

社会教育施設長寿命化計画



下川町ふるさと交流館

令和3年2月
下川町教育委員会

目 次

第1章 計画の概要	1
第2章 社会教育施設の実態	3
1 社会施設関連経費の推移	
2 老朽化状況の実態	
第3章 社会教育施設整備の基本的な方針	57
第4章 長寿命化の実施計画	59
第5章 長寿命化計画の継続的運用方針	60

第1章 計画の概要

(1) 計画策定の背景と目的

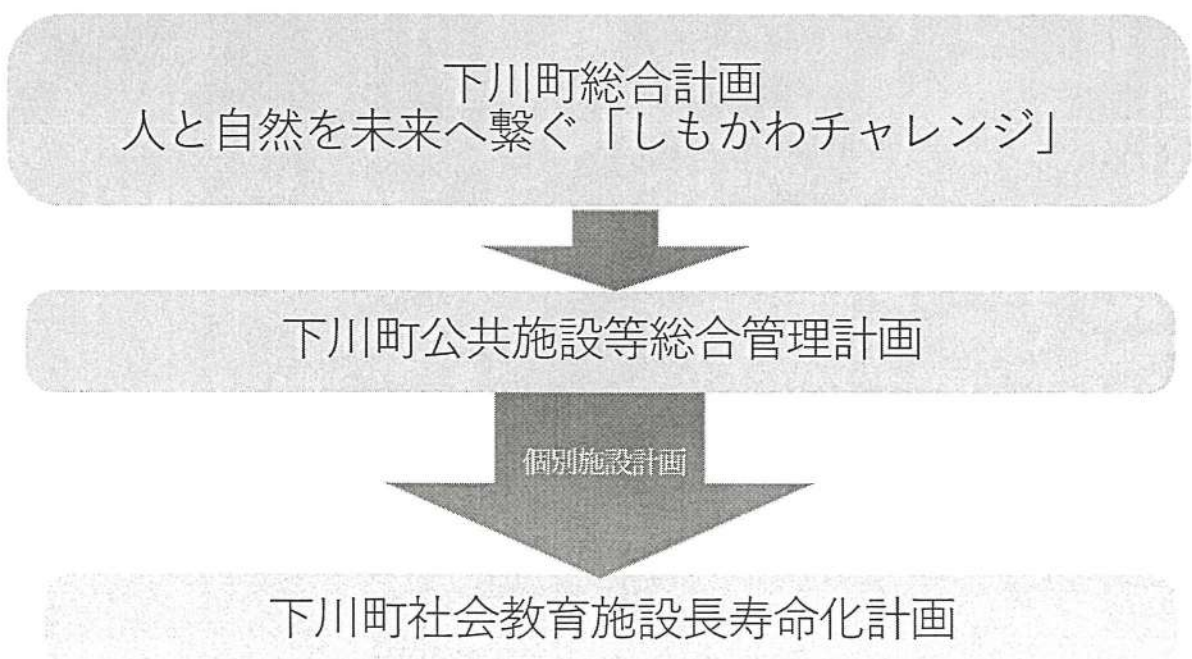
拡大する行政需要や住民ニーズの多様化に応じて整備を進めてきた公共施設等が老朽化による更新時期の到来や、大規模災害への対応が必要になっています。さらに、財政状況の厳しさが続いていることも踏まえ、少子高齢化社会等の社会構造の変化に応じた計画的な更新・統廃合・長寿命化等の検討、財政負担の軽減・平準化、公共施設等の最適な配置の実現が必要となっています。

本町においては、総合的かつ計画的な管理を推進すること目的に平成29年3月に「下川町公共施設等総合管理計画」を策定しております。本計画は、その個別計画として、町内の社会教育施設・社会体育施設等の教育委員会が所管する施設を対象に、基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画として、「下川町社会教育施設長寿命化計画」を策定します。

(2) 計画の位置づけ

第6期下川町総合計画を上位計画とし、社会教育施設を対象に管理計画を定めま

す。



(3) 計画期間

本計画は、令和3年度から令和12年度までの10年間を整備保全計画期間とします。

(4) 対象施設

本計画の調査対象施設については以下のとおりとします。

1	下川町公民館
2	下川町民会館
3	下川町ふるさと交流館
4	郷土資料展示保存施設(旧一の橋小学校)
5	スキー場ロッジ
6	下川町スポーツセンター
7	桜ヶ丘アリーナ
8	下川町B&G海洋センター
9	下川町陶芸センター

第2章 社会教育施設の実態

1 施設関連経費の推移

直近4年間の施設関連経費は、平成29年度に公民館屋上防水改修工事、平成30年度に台風21号による暴風被害のあったスポーツセンター屋上防水改修工事を行ったことにより、修繕・工事費が大きくなっています。

維持管理に必要な光熱水費及びその他施設関連経費、指定管理料の平均は、13,660千円となっています。

		単位:円			
施設名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
公民館	光熱水費	8,039,360	9,185,046	9,543,264	8,644,710
	修繕・工事費	550,324	9,972,579	1,118,502	880,339
	その他施設関連経費	9,632,985	11,208,606	11,204,978	12,416,146
町民会館	光熱水費	2,713,875	2,059,952	2,379,225	2,693,475
	修繕・工事費	102,600	0	39,960	209,000
	その他施設関連経費	5,373,323	6,187,246	6,199,477	5,801,529
体育施設	光熱水費	※指定管理料に含む		4,571,643	4,219,412
	修繕・工事費	1,909,570	195,588	9,223,200	1,240,420
	指定管理料	46,643,000	46,320,000	42,250,000	43,242,000
合計		74,965,037	85,129,017	86,530,249	79,347,031

2 老朽化状況の実態

(1) 老朽化状況の把握フロー

老朽化は、①躯体の健全性調査と②躯体以外の劣化状況調査の2つに分けて詳細に把握・評価します。

躯体以外の劣化状況は、現地調査により把握し、劣化度の算定・評価を実施し、劣化優先順位付けや、保全方針、基準の見直しを行います。

(2) 躯体の健全性調査

建築物は躯体の健全性が確保されてはじめて長期間使用することができますが、施工時の状況やその後の使用状況、立地環境により使用できる年数が異なります。長寿命化の実施方針を立てるには、施設ごとに構造躯体の健全性を評価する必要があります。構造躯体の健全性の評価は、専門知識を有する技術者が現地調査や材料試験を行ったうえで評価しますが、効率的に把握するために、過去の耐震調査の結果を用いる等、既存のデータを活用することも有効です。

計画策定段階の判定

- ・旧耐震基準の鉄筋コンクリート造の建物については、耐震診断報告書に基づき、コンクリート圧縮強度が 13.5N/m^2 以下のもの及び圧縮強度が不明のものは「要調査」建物とし、試算上は「改築」とします。
- ・旧耐震基準の鉄骨造、木造等の建物については、現地調査結果を基に判断し、おおむね建築後 40 年以上で腐食や劣化の著しいものは「要調査」建物とし、試算上は「改築」とします。
- ・上記以外は、試算上の区分を「長寿命」とします。

(3) 躯体以外の調査方法

躯体以外の劣化状況の把握は、多少建物ごとに「劣化状況調査票」を作成し、躯体以外の劣化状況を把握します。

建物ごとの屋根・屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備の劣化状況や改修時期を把握し、建築の専門家による評価を行います。

施設ごとの劣化状況調査票と施設ごとの劣化状況については次頁以降に整理します。

番 号	施設名	構造	延床面積	建築年度	築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点満点)
						基 準	診 断	補 強	調 査 年 度	圧 縮 強 度 (N/mm ²)	試 算 上 の 区 分						
1	下川町公民館	RC	2470.45	S56	39	新	—	—			長寿命	C	B	A	B	A	84
2	下川町民会館	RC	1207.18	S41	54	旧					要調査	A	A	A	A	A	100
3	下川町ふるさと交流館	S・RC	702.14	H3	29	新	—	—			長寿命	B	B	B	A	B	78
4	郷土資料展示保存施設	RC	1755.40	S55	40	旧					要調査	B	C	C	C	C	43
5	スキー場ロッジ	S	352.71	S62	33	新	—	—			長寿命	A	B	B	B	B	77
6	下川町スポーツセンター	S・RC	2338.21	S43・S63	41.32	旧新					長寿命	C	B	B	B	B	72
7	桜ヶ丘アリーナ	S	1203.92	H3	29	新	—	—			長寿命	C	B	B	B	B	72
8	B&G海洋センター	S	141.53	H1	31	新	—	—			長寿命	B	C	B	B	B	65
9	下川町陶芸センター	W	192.12	S32	63	旧	—	—			要調査	B	D	C	C	C	34

屋根・屋上、外壁・・・目視による評価

評価	基準
A	100 概ね良好
B	75 部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	40 広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
D	10 早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり）（躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている） 等

部位のコスト配分	
評価	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上	22.4
4 電気設備	8
5 機械設備	7.3
合計	60

内部仕上、電気設備、機械設備・・・経過年数による評価

評価	基準
A	100 20年未満
B	75 20～40年
C	40 40年以上
D	10 経過年数に因わず劣化事象がある場合

各施設の劣化状況調査票

建物名	下川町公民館				建築年度	S56		築39年		
構造種別	RC	S	W	延床面積	2470.45	階数	地下1階 地上3階			
耐震安全性	新耐震基準		コンクリート強度			調査年度	令和2年			
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容									
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況			特記事項	評価		
1 屋根・屋上		年度	H29	内容	屋上防水改修工事					
☐ アスファルト保護防水 ☒ アスファルト露出防水 ☒ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根（ ）				☒ 降雨時に雨漏りがある ☒ 天井等に雨漏り痕がある ☒ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☒ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☒ 既存点検等で指摘がある			屋根防水 一部改修済		C	
2 外壁		年度		内容						
☒ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☐ その他の外壁（ ） ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☒ 断熱サッシ、省エネサッシ				☒ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			外壁一部コンクリートの鉄筋露出有		B	
部位	修繕・点検箇所		実施年度	特記事項				評価		
3 内部仕上	床・壁・天井		H21・22・23・24・27	内装改修工事				A		
	内部建具（扉、窓等）									
	室内表示									
	照明器具									
	衛生器具									
	冷暖房器具									
	その他（ ）									
4 電気設備	分電盤							B		
	配線・配管									
	電灯・コンセント設備			ホール非常用照明未改修						
	その他（昇降設備）	H8・26	H26非常用電源		H8エレベータ設置					
5 機械設備	給水配管							A		
	排水配管									
	消防設備									
	その他（ ）	H24	トイレ改修工事							
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）							健全度			
							84 / 100点			

各施設の劣化状況調査票

建物名	下川町民会館				建築年度	S41		築54年	
構造種別	R C	S	W	延床面積	1207.18	階数	地上 2階		
耐震安全性	旧耐震基準		コンクリート強度		調査年度				
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容								
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況			特記事項	評価	
1 屋根・屋上		年度	H25	内容	改修工事				
☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根（ ）				☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある					A
2 外壁		年度	H25	内容	改修工事				
☐ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☐ その他の外壁（ ） ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☒ 断熱サッシ、省エネサッシ				☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある					A
部位	修繕・点検箇所			実施年度	特記事項				評価
3 内部仕上	床・壁・天井			H25・27	H25改修工事・H27児童室振動音緩和工事				A
	内部建具（扉、窓等）			H25	改修工事				
	室内表示			H25	改修工事				
	照明器具			H25	改修工事				
	衛生器具			H25	改修工事				
	冷暖房器具			H25	改修工事				
	その他（ ）								
4 電気設備	分電盤			H25	改修工事				A
	配線・配管			H25	改修工事				
	電灯・コンセント設備			H25	改修工事				
	その他（昇降設備）								
5 機械設備	給水配管			H25	改修工事				A
	排水配管			H25	改修工事				
	消防設備			H25	改修工事				
	その他（ ）			H25・27	H25改修工事・H27空調設備工事				
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）								健全度	
								100 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	ふるさと交流館			建築年度	H3		築29年	
構造種別	R C	S	W	延床面積	702.14		階数	地下1階 地上2階
耐震安全性	新耐震基準		コンクリート強度		調査年度			
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容							
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況		特記事項		評価
1 屋根・屋上		年度	H23	内容	展望塔、展示室等雨漏り対策等			
☐ アスファルト保護防水 ☒ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根（ ）			☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある			屋上防水層に木が生えている		B
2 外壁		年度	H10	内容	外壁補修			
☐ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☒ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☒ その他の外壁（コンクリート打放し） ☒ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネサッシ			☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☒ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある					B
部位	修繕・点検箇所		実施年度	特記事項				評価
3 内部仕上	床・壁・天井							B
	内部建具（扉、窓等）							
	室内表示							
	照明器具							
	衛生器具							
	冷暖房器具							
	その他（入り口天井）		R2	鉄板天井に結露とみられる錆				
4 電気設備	分電盤							A
	配線・配管							
	電灯・コンセント設備							
	その他（昇降設備）		H30	高圧ケーブル取り換え				
5 機械設備	給水配管							B
	排水配管							
	消防設備		R1	屋内消火設備の水漏れ				
	その他（ ）							
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）							健全度	
							78 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	郷土資料展示保存施設(旧一の橋小学校)			建築年度	S42・S55		築53・40年	
構造種別	R	C	S	W	延床面積	1755.4	階数	地上 2階
耐震安全性	旧耐震基準		コンクリート強度		調査年度			
部位		工事履歴(部位の更新) 年度及び工事内容						
仕様(該当する内容にチェック)				劣化状況			特記事項	評価
1 屋根・屋上		年度	H7・H9	内容	H7屋根塗装・H9屋上防水改修工事			
☐ アスファルト保護防水 ☒ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根(長尺金属板、折版) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()			☒ 降雨時に雨漏りがある ☒ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある					B
2 外壁		年度		内容				
☒ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☐ その他の外壁() ☒ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネサッシ			☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			体育館軒天下地 くぎが外れてい る ピット内に地下 水浸入している		C
部位	修繕・点検箇所		実施年度	特記事項				評価
3 内部仕上	床・壁・天井		H11・H21	体育館内部床改修				C
	内部建具(扉、窓等)		H21	体育館開口部改修				
	室内表示		H9					
	照明器具		H7					
	衛生器具		S59					
	冷暖房器具							
	その他(体育館天井)		R2	体育館内部天井一部の木毛版が落下しかけている				
4 電気設備	分電盤							C
	配線・配管							
	電灯・コンセント設備							
	その他(昇降設備)							
5 機械設備	給水配管							C
	排水配管							
	消防設備							
	その他(浄化槽)		R1	合併浄化槽設置替え				
特記事項(改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載)							健全度	
							52 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	スキー場ロッジ				建築年度	S62	築33年
構造種別	R C	S	W	延床面積	352.71	階数	地上 2階
耐震安全性	新耐震基準		コンクリート強度			調査年度	
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容						
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況		特記事項	評価
1 屋根・屋上		年度		内容			
☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根（ ）				☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフドレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある			A
2 外壁		年度	H3	内容	外壁サイディング補修等		
☒ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☒ その他の外壁（化粧サイディング） ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☒ 断熱サッシ、省エネサッシ				☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある		基礎水切欠落 ガラス熱割れ サイディング コーキング劣化	B
部位	修繕・点検箇所		実施年度	特記事項			評価
3 内部仕上	床・壁・天井						B
	内部建具（扉、窓等）		R2	ガラス熱割れ			
	室内表示						
	照明器具						
	衛生器具						
	冷暖房器具						
	その他（ ）						
4 電気設備	分電盤						B
	配線・配管						
	電灯・コンセント設備						
	その他（昇降設備）						
5 機械設備	給水配管						B
	排水配管						
	消防設備						
	その他（ ）						
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）						健全度	
						77 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	スポーツセンター(旧農村環境改善センター)			建築年度	S43・S63		築52・32年	
構造種別	R C	S	W	延床面積	2338.209		階数	地上 2階
耐震安全性	旧・新耐震基準		コンクリート強度			調査年度		
部位	工事履歴(部位の更新)年度及び工事内容							
仕様(該当する内容にチェック)				劣化状況			特記事項	評価
1 屋根・屋上		年度	H21・H30	内容	H21屋根改修・H30屋上防水改修(一部)			
☒ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根(長尺金属板、折版) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()			☒ 降雨時に雨漏りがある ☒ 天井等に雨漏り痕がある ☒ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある					C
2 外壁		年度	H21	内容	外壁改修			
☒ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☒ その他の外壁(サイディング他) ☐ アルミ製サッシ ☒ 鋼鉄サッシ ☒ 断熱サッシ、省エネサッシ			☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☒ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			玄関ドア下の腐食		B
部位	修繕・点検箇所	実施年度	特記事項				評価	
3 内部仕上	床・壁・天井	R2	旧館体育館天井一部落下				B	
	内部建具(扉、窓等)							
	室内表示							
	照明器具							
	衛生器具							
	冷暖房器具							
	その他()							
4 電気設備	分電盤						B	
	配線・配管							
	電灯・コンセント設備							
	その他(防災設備)	R2	旧館との連携未整備					
5 機械設備	給水配管						B	
	排水配管							
	消防設備							
	その他()							
特記事項(改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載)							健全度	
							73 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	桜ヶ丘アリーナ				建築年度	H3	築29年
構造種別	R C	S	W	延床面積	1203.92	階数	地上1階
耐震安全性	新耐震基準		コンクリート強度			調査年度	
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容						
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況		特記事項	評価
1 屋根・屋上		年度	内容				
☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根（ ）			☒ 降雨時に雨漏りがある ☒ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある				C
2 外壁		年度	内容				
☐ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☒ その他の外壁（防火サイディング） ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☒ 断熱サッシ、省エネサッシ			☐ 鉄筋が見えているところがある ☒ 外壁から漏水がある ☒ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			土がかぶっている壁の漏水 サイディングの劣化	B
部位	修繕・点検箇所	実施年度	特記事項				評価
3 内部仕上	床・壁・天井						B
	内部建具（扉、窓等）						
	室内表示						
	照明器具						
	衛生器具						
	冷暖房器具						
	その他（ ）						
4 電気設備	分電盤						B
	配線・配管						
	電灯・コンセント設備						
	その他（昇降設備）	H21	遠赤外線暖房機取替等工事				
5 機械設備	給水配管						B
	排水配管						
	消防設備						
	その他（ ）	H22	洋式トイレ改修工事				
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）						健全度	
						73 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	B & G 海洋センター			建築年度	H1		築31年
構造種別	R C	S	W	延床面積	141.53	階数	地上 1階
耐震安全性	新耐震基準		コンクリート強度			調査年度	
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容						
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況		特記事項	評価
1 屋根・屋上		年度	H25	内容	管理棟屋根塗装・シール打ち替え		
☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根 （プール：テトラポッドシート）			☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☒ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレングが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある				B
2 外壁		年度	H25	内容	ALC外壁塗装替え		
☒ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☒ コンクリート系パネル ☐ その他の外壁（ ） ☒ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネサッシ			☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☒ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			塗装の剥がれ 一部ALC鉄筋露出	C
部位	修繕・点検箇所	実施年度	特記事項		評価		
3 内部仕上	床・壁・天井	H25	床平板改修		B		
	内部建具（扉、窓等）						
	室内表示						
	照明器具						
	衛生器具						
	冷暖房器具						
	その他（ ）	R2	床コンクリートの割れ				
4 電気設備	分電盤				B		
	配線・配管						
	電灯・コンセント設備	R2	コンセント配線管の腐食				
	その他（昇降設備）						
5 機械設備	給水配管				B		
	排水配管						
	消防設備						
	その他（ ）	H25	プール暖房設備等改修、濾過器装置取替等				
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）						健全度	
						68 / 100点	

各施設の劣化状況調査票

建物名	下川町陶芸センター			建築年度	S32		築63年	
構造種別	R C	S	W	延床面積	192.12		階数	地上 2階
耐震安全性	旧耐震基準		コンクリート強度			調査年度		
部位	工事履歴（部位の更新）年度及び工事内容							
仕様（該当する内容にチェック）				劣化状況		特記事項		評価
1 屋根・屋上		年度	内容					
☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☒ 勾配屋根（長尺金属板、折版） ☐ 勾配屋根（スレート、瓦類） ☐ その他の屋根（ ）			☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトレンが目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある			H10屋根改修		B
2 外壁		年度	内容					
☐ 塗装仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☒ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル ☒ その他の外壁（モルタル ） ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼鉄サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネサッシ			☐ 鉄筋が見えているところがある ☒ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☒ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☒ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☒ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			H6内外改修 H7外部改修		D
部位	修繕・点検箇所		実施年度	特記事項				評価
3 内部仕上	床・壁・天井							C
	内部建具（扉、窓等）							
	室内表示							
	照明器具							
	衛生器具							
	冷暖房器具							
	その他（ ）							
4 電気設備	分電盤							C
	配線・配管							
	電灯・コンセント設備							
	その他（昇降設備）							
5 機械設備	給水配管							C
	排水配管							
	消防設備							
	その他（ ）							
特記事項（改修工事や12条点検、消防点検、各種点検等による指摘事項等を記載）							健全度	
							45	100点

社会教育施設

下川町公民館

施設の概要

昭和 56 年度建設 鉄筋コンクリート造（新耐震基準）

地下 1 階地上 3 階建て

延べ面積 2470.45 m²

屋根はアスファルト防水であるが、劣化が進み、平成 29 年度大ホール上部の上から 3 段階のレベルの屋上の改修を行った。その他は順次改修予定。

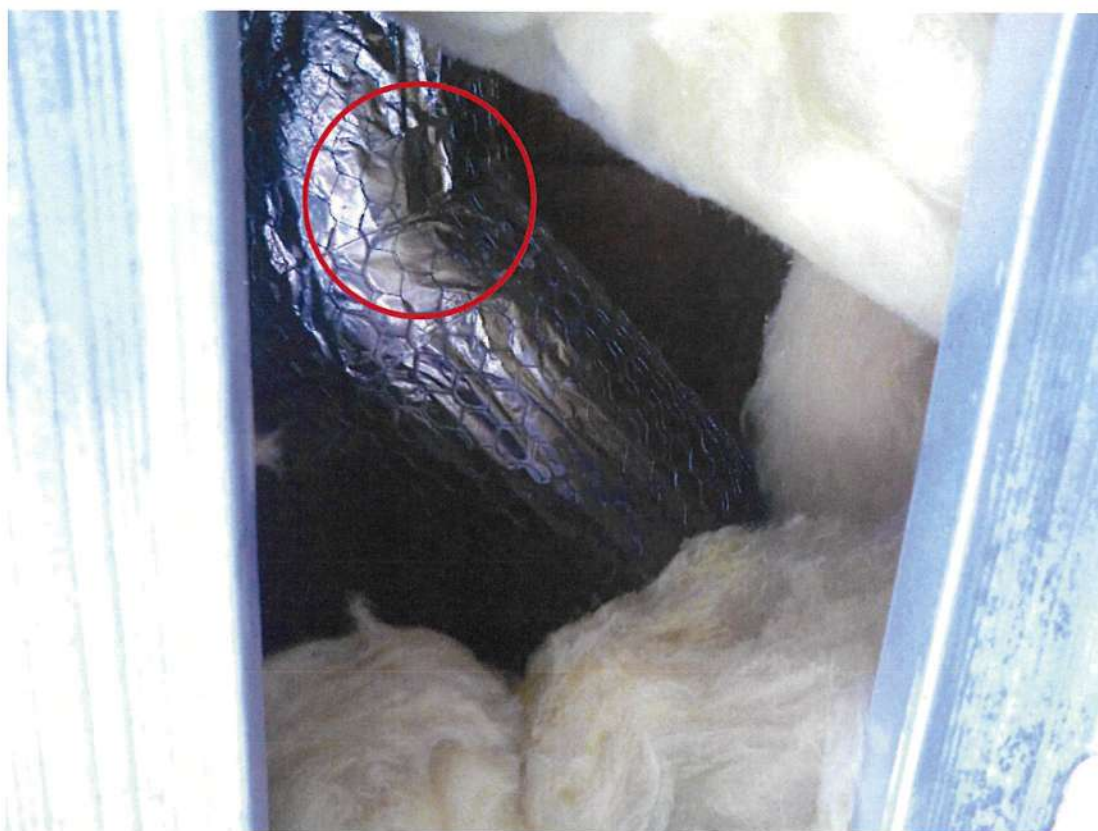
改修内容は既存アスファルト防水の上に圧縮空気混合型低比重超速硬化ウレタン防水（商品名：タイレックス G-OR-S t=3mm）を塗布した。



施設の現状（屋根の状態と雨漏り）

2 階音楽練習室で雨漏りが確認されている。





天井をはがして確認したところ、ドレイン廻りより水が漏れている跡が確認された。



雨漏れしている屋根



雨漏りが確認されたドレイン 土が溜まり、コケが生えている。ドレインの管理が十分でない。



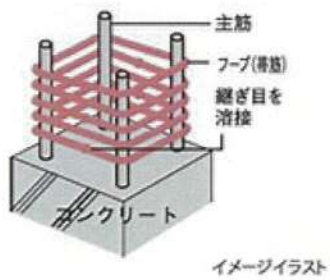
他の未改修屋根、補修跡が見られる。



平面部分と立ち上がり部分の入隅が切れており、防水性能が落ちていることを示している。

施設の現状（外壁）

外壁については、一部に鉄筋の露出が見られ、当初の施工の問題が生じている。



柱のフープ筋が露出しており、早期の対応が必要である。

施設の現状（その他設備等）

令和元年度に LED 化を進め、令和 2 年度に共用部非常用照明の LED 化を行った。あとは大ホール非常用照明の LED 化が残っている。

平成 8 年度にエレベータ設置を行った。

平成 24 年度にトイレ改修を行った。

平成 26 年度に外部に非常用電源を設置した。

また平成 21 年～24 年、平成 27 年に内装改修工事を行った。

内装、電気設備、機械設備についてはこれらの改修により、おおむね良好な状態が保たれている。

下川町民会館

施設の概要

昭和 41 年度下川町体育館として建てられた。

鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 2 階建、延べ床面積 1,165.332 m²

平成 25 年に全面改修し、渡り廊下で公民館とつなげ、

延べ床面積 1207.18 m²となった。

施設の現状

構造的には旧耐震の建物であり、耐震診断、耐震改修は行われていない。

現在は 1 階の図書館とクラスター推進部が入居、2 階に学童保育の施設となっている。

屋根は一部ウレタン塗膜複合防水、一部木毛板 t 25＋長尺カラーガルバリウム鋼板 t0.4 蟻掛葺で改修済みである。

外壁も改修済みで、既設コンクリート壁に吹付タイルと一部型枠用合板 t12 下地カラマツ羽目板～木材保護着色塗装となっている。

カラマツ羽目板は日照条件により、陽の当たる面は退色が始まっていることから、定期的な塗り替えが今後必要になる。

トイレの改修も行われており、内外装は良好である。

当初の灯油式暖房が撤去され、役場周辺熱供給工事によってバイオマス熱供給がされており、エアコンも設置されている。

電気設備、機械設備等についても、改修後良好な状態になっている。

ふるさと交流館

施設の現状

平成3年度完成

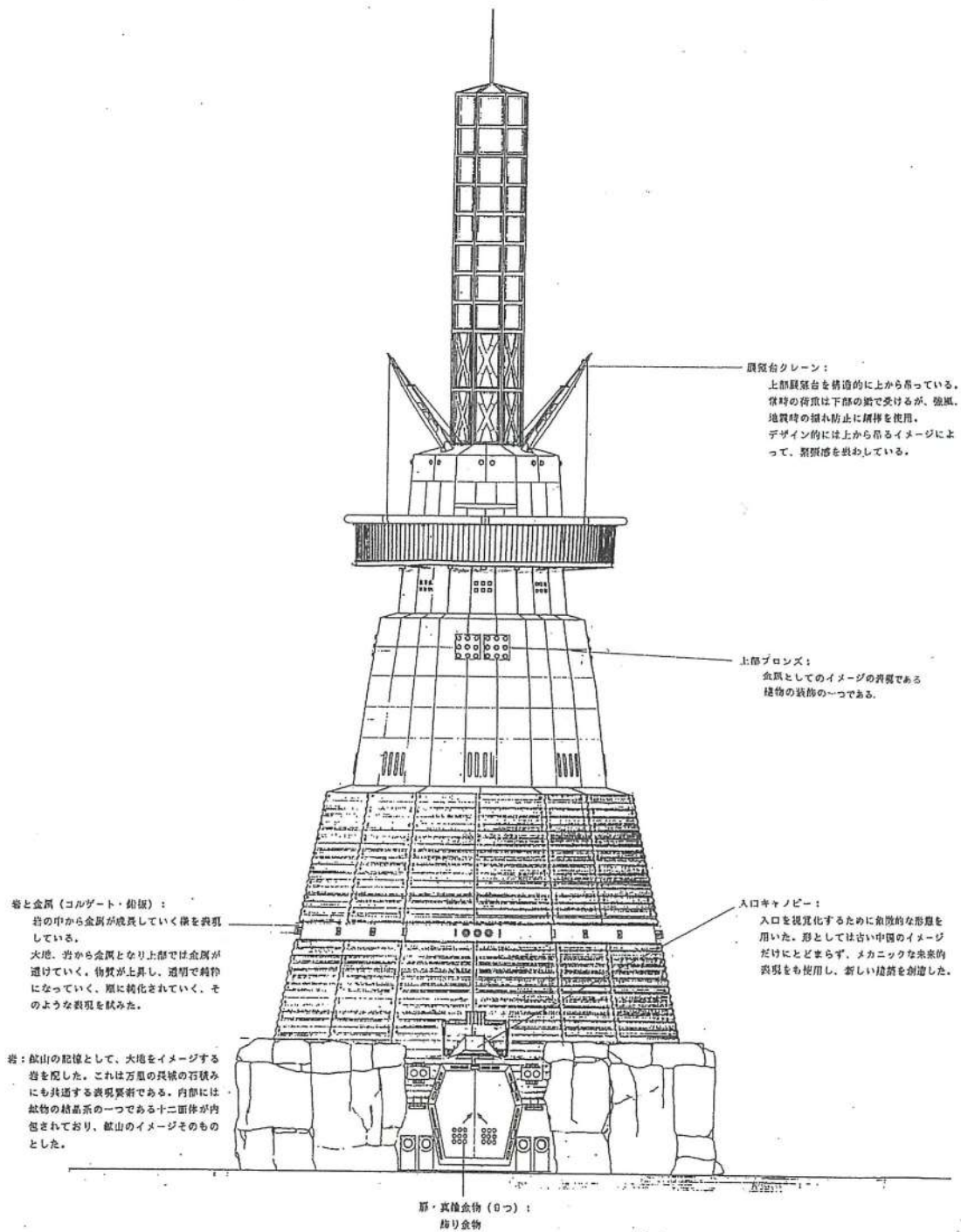
鉄筋コンクリート、一部鉄骨造の地下1階、地上2階 延べ面積 702.14 m²
新耐震基準

当初の設計意図

- ・ 設置目的 昭和56年から愛町精神の涵養、地元産品の流通拡大、田舎観光の開発をめざした「ふるさと運動」の一つに、手づくり観光資源をめざした「万里長城」築城が昭和61年より行われた。
その「ふるさと運動」の中核施設・町のシンボルとして設置され、郷土資料の展示・保存による文化の継承、町民相互の交流及び都市住民等との交流を図ることを目的とされている。
- ・ 設置年度 平成3年7月（オープン）
- ・ 設 計 者 建築家 故 毛綱 毅曠（もずな きこう）氏
北海道釧路市出身の建築家で、国内のみならず海外において建築部門の出品・出展を数多く行い、近代的な感覚が高い評価を得られている。
道内では、釧路市博物館、フィッシャーマンズワーフなどの設計を手がけている。
- ・ テーマ **万里長城との調和**を基本として「**東洋的思想を新しく未来に読み替えたシンボル**」
 - ・ 中国の万里長城は、不老不死の地上の楽園「崑崙山（こんろんさん）」から**世界の四方八方へ伸びる龍派**（脳のシプナスのようなネットワーク）の一つと言われている。その**龍派の一部が大陸から飛び出し、下川の万里長城を経て、ふるさと交流館に達し、この地に新しい龍派の芽を育てている。**
 - ・ 建物の配置は、シンボルである塔を中心として中国的空間構成をしている。（**塔**=大雁塔、**池**=金明池、**資料館**=石窟、**廻廊**=四合院）
 - ・ 塔の外観は、**龍派（金属の精）が岩塊から金属へ、さらに天へと昇華**

するイメージとされている。

- ・塔の内部は、金属の結晶体としての12面体がイメージされている。
- ・資料館の室内は、中国的色彩を用いている。





施設の現状（資料館屋根）

資料館屋上はコンクリートスラブの上にアスファルト露出防水（非歩行用）、硬質ポリイソシアヌレート系断熱材 t50、保護メッシュ、砂利敷き t60 で構成されている。勾配 6/100

ポリイソシアヌレートフォームとは

イソシアヌレート環はウレタン結合に比べて、結合の熱安定性が高く、このイソシアヌレート環を含む硬質ウレタンフォームは、**高い難燃性**を有する。



土がかぶり、コケが全面を覆っていて、一部に草が生えている。



木の幹を切った後

4～5 か所木が生えている。

木が生えてしまうと、根が防水層を貫通する可能性があり、防水性能を失わせる可能性がある。無理に引っこ抜くと、防水層を痛める可能性があるため、除草剤等を部分的にかけて処理する。除草剤が防水層を腐食させる可能性もあるため、できるだけ少量の除草剤を木だけに散布することが望ましい。

トップライト内部に結露又は雨漏りの跡が見られる。
コーキングも劣化しており、雨が入っている可能性がある。



このタイプのトップライトは2か所あるが、特に劣化の激しいのは1か所である。
シーリングの打ち替えが必要である。

施設の現状（床改修）

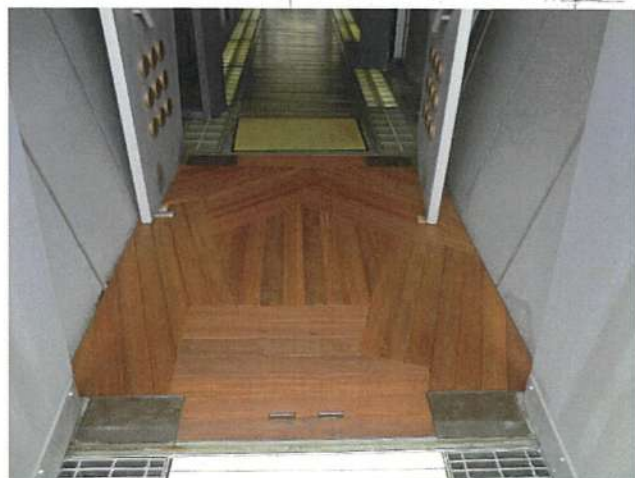
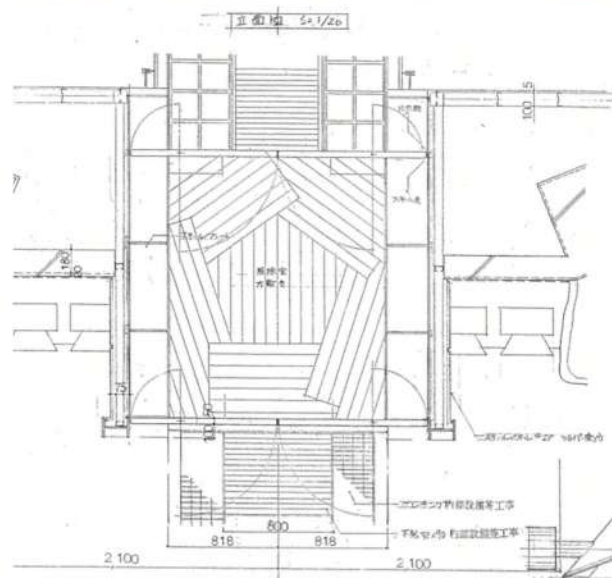
平成元年建設のふるさと交流館エントランスのフローリングが腐っているため、改修を行った。

毛綱毅曠氏デザインの建築の趣旨を尊重し、貼り方のデザインを踏襲し、復元をめざした。

既存のフローリングは平成元年から30年経ていることを考えれば、経年劣化といえるが、改修に当って、ウリン材（アイアンウッド）を採用した。ウリン材は、インドネシア・マレーシアを原産とする耐久性と強度に優れた超硬質木材である。メンテナンスフリーで再塗装の必要がない。

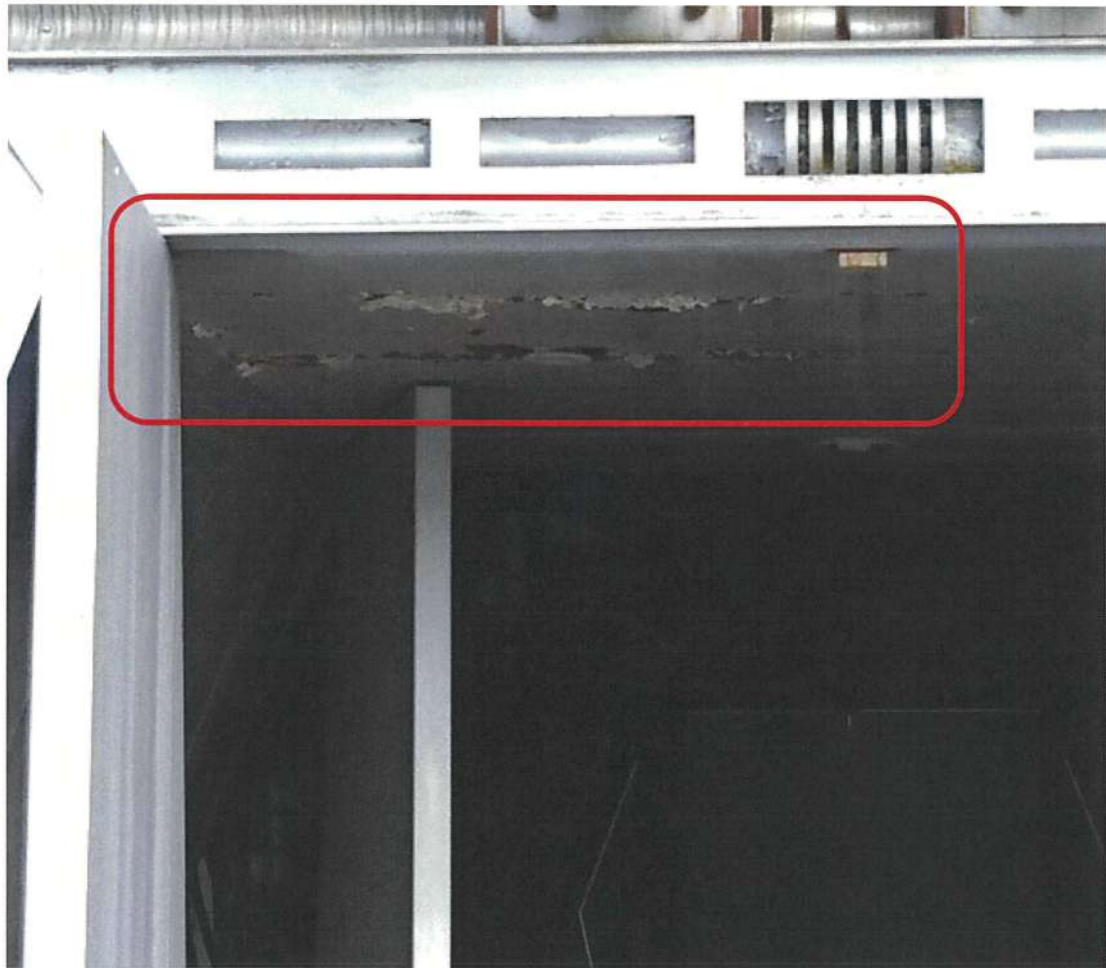
材質が安定しており、反りや割れ、曲がりがない安定した材料である。

ワインなどで有名なポリフェノールを大量に含み、強力な防腐・抗菌作用を持ち、デッキでの使用が可能で、水中や海中でも使用に耐える。



施設の現状（入り口天井）

この部分の天井部（鉄板）が結露と考えられる腐食をして、ポロポロになって床に落ちている。



屋根からの漏水とは考えづらい。

郷土資料展示保存施設

施設の概要

昭和 42 年（旧耐震基準）体育館 鉄骨造（545.7 m³）延べ面積 1755.4 m²

昭和 55 年（旧耐震基準）校舎 鉄筋コンクリート造 2 階建て （1209.7 m³）

昭和 59 年度、体育館屋根葺き替え。

昭和 63 年、平成 7 年、平成 11 年体育館床改修

平成 7 年度、屋根の塗装、

平成 9 年度、アスファルト露出防水箇所をステンレス防水に改修。

平成 21 年、廃校舎を札天山収蔵館として改修し、体育館の床を改修している。

施設の現状

渡り廊下の天井に雨漏れのシミが残っているが、常時雨漏れしているわけではなく、直ちに改修が必要な状況とは言えない。

鉄板屋根部分の塗装の劣化は進んでいるが、比較的良好な状態である。

煙突に巻いた鉄板は雪と氷ではがされており、いづれははがれてしまうとみられる。



施設の現状（体育館軒天）

体育館の軒天が下地のくぎが外れており、強風で飛ぶ可能性がある。危険な状態である。



施設の現状（体育館天井）

天井の木毛版一枚が、落下の恐れがある



下川町陶芸センター

施設の概要

錦町 43 番地 敷地面積 289.28 m²

昭和 32 年 9 月 12 日（旧耐震基準）名寄信用金庫として建設 257.54 m²

昭和 55 年 役場仮庁舎として買収

昭和 61 年 7 月 24 日 一部解体 65.42 m² 延べ床面積 195.12 m²

昭和 62 年 4 月 1 日 「下川町労働福祉会館」に名称変更

平成 14 年 7 月 1 日 「下川町陶芸センター」として所管換 総務課→企画課

平成 16 年 4 月 1 日 所管換 企画→社会教育課

平成 17 年 行政財産から普通財産（教委関係）へ移動

改修工事の履歴

平成 6 年 5 月 内外改修工事

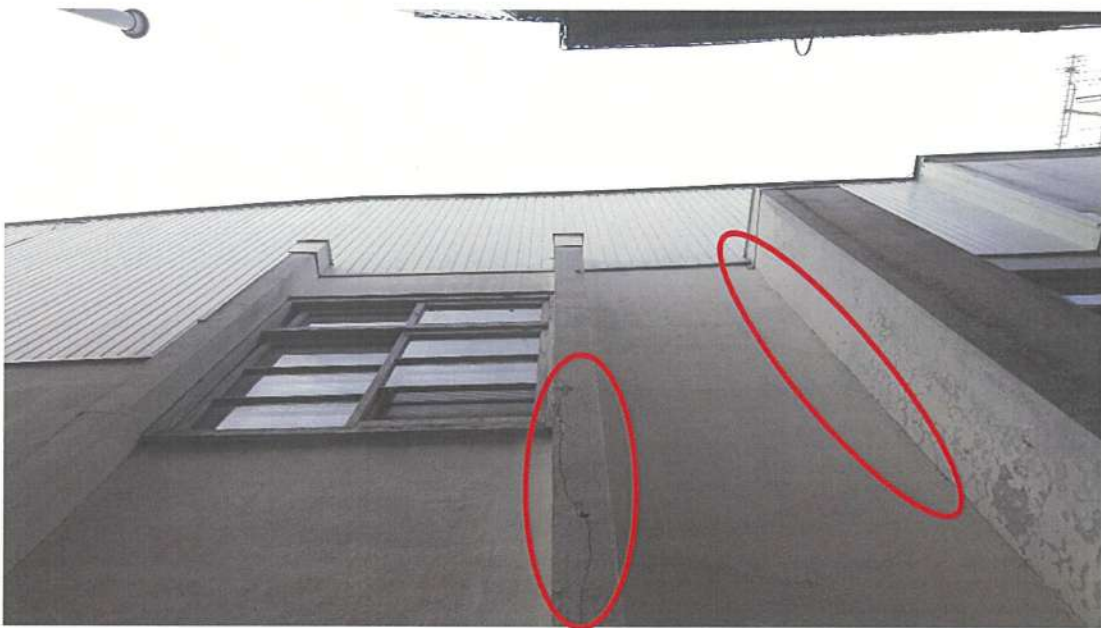
平成 7 年 10 月 外部改修工事

平成 10 年 屋根改修工事

施設の現状



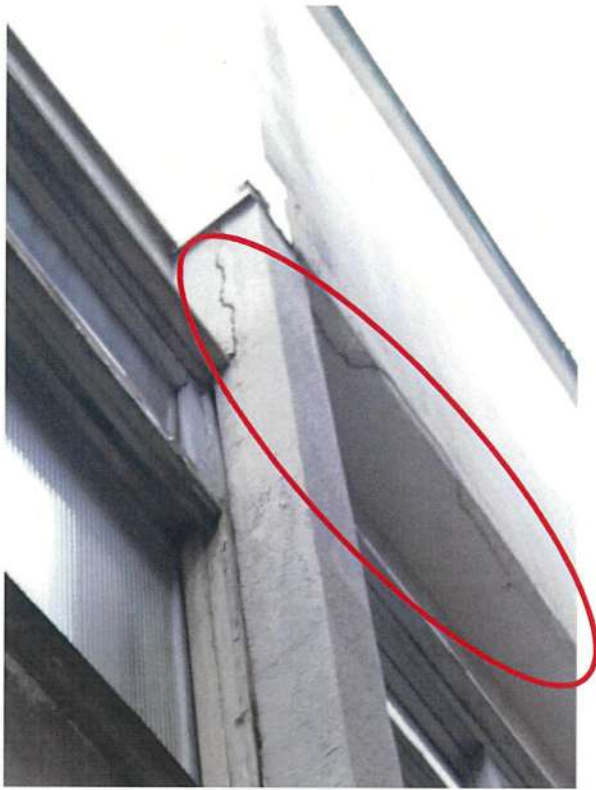




外壁モルタルの割れが生じている。
開きが大きく、落下の恐れがある。

窓からの水の侵入のあとも見られる。









体育施設

スキー場ロッジ

施設の概要

昭和 62 年（新耐震基準） 鉄骨造地上 2 階建て 延べ面積 352.71 m²
屋根は長尺カラー鉄板 t 0.35 蟻掛け葺き、外壁は
外壁はモルタル リシン吹付と化粧サイディング t 12

施設の現状（外壁等）

基礎の水切りが欠落
内部の鉄骨が見える
雨侵入の恐れがある



サイディングコーキングの劣化



施設の現状（窓）

窓ガラス 2 枚の破損



ペアガラスの内外破損



ペアガラスの外側破損



屋根に対して平行のラインで破損が起こっているため、雪のよる影響とも考えられる。
また、上部屋根の庇影による熱割れとも考えられる。

施設の現状（不適切な改修）



除雪機の車庫の床に水が溜まるとのことで、内部を見ると、当初の土間が研られ、地中梁も鉄筋が露出していた。

除雪機がこれ以下の高さのものがなかったために、床を下げざるを得なかったというが、建築的にはとても危険な措置である。

周囲の地盤と同じレベルか少し下がっているため、水の侵入は避けられない。



下川町スポーツセンター

施設の概要

昭和 43 年度 下川中学校屋内運動場危険建物建築及び新增築工事（旧耐震基準）
昭和 54 年度 スポーツセンターとして天井張替、内部塗装、床面カーペット等内部改修・暖房設置
昭和 59 年スポーツセンター屋根葺き替え
昭和 63 年度農村環境改善センターとして鉄筋コンクリート造（新耐震基準）
2 階建て 延べ床面積 1197 m²建設
平成 9 年渡り廊下増設
平成 21 年スポーツセンター屋根改修

施設の現状（火災警報器）

平成 9 年にスポーツセンターと農村環境改善センターが渡り廊下でつながり、農村環境改善センター内事務室で管理することとなったが、スポーツセンター側の火災警報器との連携が未整備である。

施設の現状（第二ホール）

スポーツセンターの天井が一部欠落している。



施設の現状（屋根防水）

上部の屋根は改修したが、低層部の屋根は未改修



屋上の様子はドレイン廻りの氷を落とすためにスコップかトンボバチツルを使ったとみられる傷跡が生じている。

防水に多数穴が開いている。



施設の現状（玄関ドア）

玄関ドアの横の下端が腐食している。



腐食の原因は融雪剤（塩化カルシウム）のためかもしれない。



施設の現状（体育館床）

体育館の床については旧体育館側は研磨してきれいな状態になっている。軋みも感じられない。

改善センター側の体育館はワックスをかけてきれいになっているが、研磨していないので、ゆがみがあるほか、中央部分で軋み床鳴りが生じている。バレーボール用のネットのポールを指すホールが故障して使えない状態である。

桜ヶ丘アリーナ

施設の概要

平成3年度建設 構造区分上は鉄骨造であるが、低層部分は鉄筋コンクリート造である。

新耐震基準

地上1階 延べ面積 1203.92 m²

H22年度にトイレの洋式化を行っている。

H21年度 遠赤外線暖房機を取り換えている。

施設の現状（屋根の防水）

現状、屋根からの雨漏りが見られる。屋根は長尺カラー鉄板横葺き
平成28年度破風の鉄板が剥がれ、修繕を行っている。



黒くなっている部分が雨漏りのあとで、4か所ほど雨漏りしている。



低層部分の屋上はコンクリートスラブにアスファルト防水、縁切モルタル ± 15 の上に押さえコンクリート ± 80 合成樹脂の目地をとっている。
立ち上がりモルタルのひび割れは見られるが、防水は保護されているので、性能を保持していると考えられる。



施設の現状（外壁）



鉄骨構造の下の RC 部分の壁は外部が土に接している部分であり、内部は着色木毛版 t25 打ち込み、外部は浸透性塗布防水が施されているが、おそらくコンクリートのセパレータ部分の処理が十分でなく、土が混じった水が浸入している。



どの段階で吹き付けられたか確認できないが、黄色い部分にウレタン吹付が施されている。断熱のためとしては不完全なので、止水のために吹いたとみられる。

外壁はコンクリート部分は打ち放しに特殊塗料吹付、鉄骨部分は防火サイディング t14 である。



外壁のサイディングが随所に劣化が見られる。

雨がかり部分ではなく、軒下の上部和出隅の劣化が見られる。



B&G 海洋センター

施設の概要

平成元年度建設 鉄骨造 地上1階 延べ面積 141.53 m²（プールを除く）
新耐震基準

H25 年度に改修工事を行い、管理棟屋根の塗装、シール打ち替え、外壁
ALC の塗装替え、内部床平板の改修、上屋鉄骨塗装等を行っている。

施設の概要（外壁）

外壁は **ALC（防水タイプ）** t100
弾性アクリルリシン吹付であっ
たが、改修で
無機微弾性塗装（ダ イス・パ ームキ
ダ イス・パ ーセラアクア）

室内の湿気を逃がすことを考慮
されてきたが、H25 年度の改修
から7年を経て、塗装がはがれ
ている。一部には ALC の損傷も
みられる。



ALC の鉄筋が露出している。

塗り替えを検討したが、良い
塗材がない。

横胴縁に通気層を設け、ガル
バリウム鋼板（角波）を上か
ら張ることが長期的な対応策
と考えられる。

ただし、規制のガルバリウム
の色では、水色はないと思わ
れる。



施設の現状（鉄骨）

H25 年度に上屋鉄骨の塗り替えを行い、全体的には良好な状態であるがジョイントのボルト廻りがさびて、さびた水が床を汚している。





一つの合掌に対して3か所のジョイントがある。

対応策としての塗装は次の通り

ボルト部分については錆と塗装をケレンして除去した後、油脂類を取り除くために溶剤でふき取る。錆置換型塗料（DNT サビシャット）1回塗りの上、ウレタン塗装（既存近似色）2回塗り

通路側2方向についてはローリング足場で施工できるが、頂上部分については仮設足場が必要となる。

施設の現状（内部床）

男子更衣室と女子更衣室の間の通路の脇の床に亀裂が入り、歩行に危険な状態になっている。

平板も下がっているため、地盤がさがること割れたとみられる。



対応策としては次の通り

欠けている部分を研り撤去する。

床・側溝・立ち上がりの塗材を研磨する。

撤去した部分にポリマーセメントで補修する。

プールサイド用塗装（プールエース）防滑工法で施工する。

この部分と女子洗眼所横の平板が落ちている。

下は砂でレベルをとっているが、地盤が下がったと考えられる。

砂を足して敷き直す。



施設の現状（電気設備）



コンセントの配線管が腐食し、配線が露出している。配線管を交換するか、カバーを付ける必要がある。



今後必要な改修計画

ふるさと交流館

トップライトシーリング打ち替え 1か所 90,200
入り口天井 錆 工法などを検討し、見積りが必要

農村環境改善センター

屋上防水改修工事 6,897,000

B&G 海洋センター

床補修・鉄骨ボルト塗装 2,882,000
外装改修 工法などを検討し、見積もりが必要

第3章 社会教育施設整備の基本的な方針

(1)点検・診断等の実施方針

公共施設等は、利用状況、自然環境等に応じ、劣化や損傷の進行は施設毎に異なります。各施設の特性を考慮したうえで、定期的な点検・診断により施設の状態を正確に把握することが重要です。現在行っている法定点検のほか、必要に応じ任意の調査、点検を効果的に実施することとします。その結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的・効果的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次の点検・診断等に活用していきます。

(2)維持管理・修繕・更新等の実施方針

従来、劣化等による損傷の度に必要な修繕が行われてきました。大規模な修繕や更新をできるだけ回避するため、施設特性や役割を考慮のうえ、安全性や経済性を踏まえつつ、損傷が軽微である早期段階に予防的な修繕を実施することで、機能の保持・回復を図る予防保全型維持管理の導入を推進します。

予防保全型維持管理については、公共施設等の利用率、役割、老朽化等を総合的に勘案し、維持管理・修繕・更新等を実施します。なお、実施に当たっては、既存施設との集約化や小規模化及び設備等の省エネ化等を十分検討し、初期投資及び施設運営に関するコストを総合的に検証したうえでトータルコストに配慮することとします。

(3)安全確保の実施方針

町民生活や社会経済活動の基盤である公共施設等については、利用者の安全を確保したうえで、必要な機能を確実に発揮し続けることが大前提となっています。これまでは劣化や損傷が起きてからの対応が中心でした。今後は、外壁の落下、防災設備の故障など利用者の安全の確保に直結する場合は早急に対策を行い、施設を安全な状態で維持し、サービスを継続的に提供します。そのほか、すでに用途廃止した施

設や利用率の低い施設について、今後も利用が向上する見込みのない施設かつ老朽化した施設が生じた場合には、周辺環境への影響を考慮し、取り壊しするなどの対策を講じ、安全性の確保を図ります。

(4)長寿命化の実施方針

公共施設等の不具合や劣化などに対して、従来のように維持管理・修繕していくことは、大きな財政負担が一時に集中することとなり、将来の少子高齢化や人口減少予測、今後の厳しい財政状況のもとでは、非常に困難な状況にあります。点検・診断等の実施方針のとおり早期に健全度を把握し、予防的な修繕等の実施を徹底し、今後も継続的な運用(利用)をする必要がある施設については、計画的な施設の長寿命化を推進します。

(5)統合や廃止の推進方針

公共施設等の利用状況や老朽化等を踏まえ、公共施設等の統合や廃止等の方向性を検討します。方向性の検討にあたっては、単に施設の必要性の有無だけで判断するのではなく、施設で行われている事業(サービス)の必要性等とあわせて検討を行う必要があります。実際の統合や廃止(取り壊し)までの決定については、個別評価を行うなど、現状評価と今後の評価を踏まえ、十分な議論ののちに行います。

(6)建築物の耐震化に関する基本的な考え方

公共施設については、災害時の拠点施設や、避難所等としての役割を持つものも多いことから、その用途、規模、利用状況などを勘案し、必要に応じ耐震化を検討します。

第4章 長寿命化の実施計画

(1)改修等の優先順位づけ

建築年数が40年を超え劣化が著しく顕在化している建物については、建物の健全性を回復するための大規模改造を行います。その後は、建物の健全性の回復を図るタイミングに合わせて、財政状況を考慮したうえで、社会教育の環境改善や社会的なニーズに対応するための改修を行っていきます。

(2)今後の実施計画

第6期下川町総合計画の前期期間(令和4年度まで)の計画として、令和3年度に公民館屋上防水改修工事の2期目(1期目は平成29年度に実施)を実施します。また、令和4年度には公民館大ホールの非常灯をLED機器に交換をします。

中期期間(令和5～8年度)には、令和5年度に公民館屋上防水改修工事の3期目(最終期)を実施します。また、令和7年度以降にスキー場ロープリフトの更新を行います。

このほか、時期は未定ですが、B&G海洋センター腰洗い槽改修工事の実施します。また、スキー場のネーミングライツ応募企業にめどが立った時点でスキー場ジャンプハウス外壁等改修工事を実施します。

その他、令和2年度の調査で判明した改修が必要な箇所(ふるさと交流館のトップライトシーリング打ち替え・入り口天井の錆対応、スポーツセンターの屋上防水改修工事、B&G海洋センターの床補修・鉄骨ボルト塗装、外装改修)については、令和4年度に行われる下川町総合計画の変更計画に搭載し、予算化していくことを目指します。

第5章 長寿命化計画の継続的運用方針

(1) 情報基盤の整備と活用

下川町公共施設等総合管理計画の基本的な方針に従い、管理・運営状況等に関わる情報を公共施設全体として一元的に把握し、効率的かつ効果的な維持管理に向けた取り組みとして推進することを目指します。

また、先進的な取り組みから、経費削減に向けた技術や情報等を積極的に取得し、そこで得られた知見を広く共有する場の設置を検討していきます。

(2) 推進体制等の整備

本計画は、社会教育施設を所管する教育委員会が中心となって推進していきますが、下川町の公共施設の一部であることも認識し、下川町公共施設等総合管理計画との連携を図りつつ、複合化する場合等、地域に開かれた施設となるように横のつながりのある体制で計画の進捗状況を管理していきます。

また、社会教育施設は地域コミュニティの核となる施設であることから、具体的な取り組みの実施に当たっては、地域住民や関係団体等との意見交換を行うなど、町民の意見を反映しながら事業化を進めていきます。

(3) フォローアップ

本計画は、長期の計画であることから、社会教育を取り巻く環境の変化や人口の推移、社会情勢の変化等に対応する必要があるため、5年ごとにPDCAサイクルによる随時見直しを行い、実現性・実効性を確保した計画とします。

